

情 報 提 供
（ 水 産 庁 ）

リモートセンシングを活用した有害赤潮の種判別手法の開発事業

平成30年度予算案 15百万円の内数

(平成29年度予算額 ー)

農林水産省
水産庁増殖推進部研究指導課

事業概要・目的

○ 人工衛星により有害赤潮の種判別を可能とするリモートセンシング技術を開発し、早期に有害赤潮の発生状況や分布範囲を迅速に把握する手法を開発します。

事業イメージ・具体例

人工衛星データからの赤潮検知精度の高精度化、および赤潮種別分類に関する技術開発

GCOM-C/SGLIの高解像度画像により、海域の分光特性を解析



赤潮発生やそれに伴う貧酸素化による養殖魚等の大量斃死が水産業にとって大きな課題

○ 赤潮種の判別手法の開発

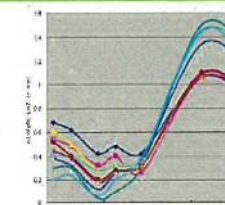
- ・珪藻類に加えてシャットネラ、カレニアなどの多種類の赤潮類について判別する手法を開発
- ・地域特性や季節要因等を踏まえた赤潮の判別手法を開発

○ 赤潮の発生予測技術の開発

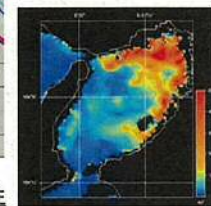
HFレーダ、海洋モデル、現場データ等と複合し、赤潮の発生海域の予測技術を開発

○ 赤潮自動判別技術の開発

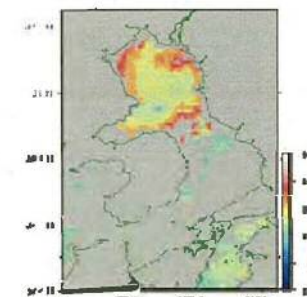
赤潮の検知を簡便に利用するための技術開発（GISデータによる汎用化）



様々な海水分光特性



クロロフィル濃度表示



赤潮の自動判別技術の開発

資金の流れ



委託

民間団体

期待される効果

○ 漁業者等に対し、早期に有害赤潮の発生状況と分布範囲を迅速に情報提供することで、赤潮防御が可能になります。